

事業成果報告書

1. 個人または団体名(団体の場合は代表者名も記入)	
熊田 陽子	(代表者名:)
2. 研究または活動のテーマ(課題名)	
オランダ・アムステルダムの合法的移民セックスワーカーが構築する出身国ネットワークの実態に関する文化人類学的研究	
3. 助成額	
498.000	円
4. 実施期間	
2017年 7月 ~ 2018年 6月	
5. 実施状況	
<p>実施期間中における主な調査研究活動は以下の通りである ([研究 1~3]は申請書に対応)。</p> <p><u>2017年</u></p> <p>7月：移民セックスワーカーに関する文献研究を実施 ([研究 1] [研究 2])。</p> <p>8月：アムステルダム在住インドネシア系セックスワーカーの出身地域 (バンドゥン) にて、ワーカー親族コミュニティを中心としたネットワークの調査を実施 ([研究 2])。</p> <p>8月19日：ワーカー本人及び親族と共に先祖を祀る儀礼に参加、参与観察調査を実施。</p> <p>8月20日：ワーカー親族の結婚式に参加、参与観察調査を実施。</p> <p>8月21~26日：ワーカー親族宅における参与観察調査を実施。</p> <p>9月~12月：データの整理及び分析、文献研究の実施 ([研究 1] [研究 2])。</p> <p><u>2018年</u></p> <p>2-3月：アムステルダムの合法的赤線地帯で働くセックスワーカーが作る出身国コミュニティについて参与観察調査を実施 ([研究 1] [研究 2])。現地研究者と『セックスワークの人類学』(仮)論集発行に向けた話し合いを実施 ([研究 3])。</p> <p>2月24日：インドネシア系元ワーカーへの聞き取りの後、Niko Besnier 教授 (Professor of Cultural Anthropology, University of Amsterdam) と打ち合わせを実施。</p> <p>2月25日：エクアドル出身ワーカーに対する聞き取り及び参与観察調査を実施。</p> <p>2月26日：現地セックスワーク研究者と意見交換及び論集作成に向けた打ち合わせを実施 (メンバー：Dr. Lorraine Nencel / VU University Amsterdam, Dr. Marie-Louise Janssen / University of Amsterdam)。</p> <p>2月27・28日：インドネシア出身現役ワーカーのインドネシア系移民ネットワークについて参与観察調査を実施。</p> <p>3月1・2日：エクアドル出身ワーカーの南米系移民ネットワークについて参与観察調査を実施。</p> <p>4月：調査で得た情報のデータ化と整理[研究 1] [研究 2] [研究 3]。</p> <p>5-6月：[研究 1] [研究 2] [研究 3]に基づく論文の執筆を開始。</p>	

6. 事業成果と自己評価

期間中には、申請書の内容（アムステルダムで合法セックスワークに従事する移民ワーカーが紡ぐ出身国を中心としたネットワークについて明らかにする計画）に従って調査研究活動を遂行した。2017年8月に実施したバンドゥン調査では、セックスワーカーの甥の結婚式に参加する機会を得た。結婚式は国内外の親族一同が集まる大きなイベントであり、その現場に身を置くことで、ワーカーが出身国で持つネットワークの詳細に加え、ワーカーの微細な来歴や親族関係における位置付け等の情報が獲得できた。2018年2月に実施したアムステルダム調査では、上記インドネシア系ワーカーのアムステルダムにおけるネットワークに関するデータを収集すると共に、エクアドル出身ワーカーが他の南米出身セックスワーカーと構築するネットワークの実態についても捕捉することが可能となった。更にアムステルダムでは、現地研究者とのミーティングを重ね、セックスワーク及び性の人類学に関する成果公表に向けた作業を進めることができた。ワーカーの都合によりエクアドルに同行する調査は実施できなかったものの、バンドゥン、アムステルダムで行った調査研究の進展と成果は概ね十分なものであったと自己評価する。

なお、期間中には、1件の論文と4件の発表を成果として公表した。詳細は以下の通りである。

学会誌等への発表

- ① 2017年12月 「『窓』のある景色、『窓』から垣間見る世界—法・観光化・政治の狭間にあるアムステルダムの移民売春者をめぐる予察」、『社会人類学年報』第43巻、東京：弘文堂。【査読有】

学会等での発表

- ① 2017年11月28日 「オランダの合法的売春をめぐって—一国の「顔」としての移民売春者—」、立教大学観光学部交流文化学科（須永和博講師担当）『観光消費論』、ゲストスピーカー。
- ② 2018年6月12日 「性風俗世界から二元論を考える」立教大学異文化コミュニケーション学部（奥野克巳専任講師担当）『あっち、こっちの人類学』、ゲストスピーカー。
- ③ 2018年7月15日 「性風俗世界を生きる『おんなのこ』のエスノグラフィ」『セックスワークサミット2018夏@渋谷』、坂爪真吾（一般社団法人ホワイトハンズ代表理事）主催（於：国立オリンピック記念青少年総合センター）【招待講演】
- ④ 2018年7月15日 「『裸のお仕事』ではたらく女の子を学問するということ」（鈴木涼美との対談）『セックスワークサミット2018夏@渋谷』、坂爪真吾（一般社団法人ホワイトハンズ代表理事）主催（於：国立オリンピック記念青少年総合センター）【招待講演】

学会誌等への発表【論集は編者査読中】

- ① 2019年3月 “Technologized and Natural Bodies: Use of Technologies by Female Sex Workers in Tokyo, Japan”, I.Holca and C. Tamas eds., *The Bodies in Contemporary Japan* (tentative), London: Routledge.
- ② 2019年4月 “Stigmas toward prostitution and sex workers: In history and currently in Japan”, J. Bjonness, L. Nencel and M. Skilbrei eds., *Reworking Stigma through Sex Work Studies*, Abingdon: Taylor & Francis Books.
- ③ 2019年5月 “Play for Laugh, Laugh for Unity: *On’nanoko* (sex workers) Working ‘Single’ at a Tokyo’s Sex Establishment”, W. Shiino ed., *Toward the Co-existence of Various ‘Single’ in the Global Societies* (tentative).